

令和5年

第14回彦根市子ども議会会議録

11月
(11月18日)

彦根市議会

彦根市子ども議会会議録総目次

11月18日（土）

議事日程	1
本日の会議に付した事件	1
会議に出席した議員	1
会議に欠席した議員	1
議場に出席した事務局職員	1
会議に出席した説明員	2
開会	3
開議	3
会議録署名議員の指名（1番 宮崎稜人さん（佐和山小学校）、2番 林紗江さん（河瀬小学校）	3
会期の決定	3
彦根市政について（一般質問）	3
1番 宮崎稜人さん（佐和山小学校） 質問	4
冬に大きな一大イベントを開きたいということについて	4
久保観光文化戦略部長 答弁	4
2番 林紗江さん（河瀬小学校） 質問	5
タブレットを使いやすいように机を広くすることについて	5
前川教育部長 答弁	5
3番 大菅征哉さん（稲枝東小学校） 質問	6
小学校の設備を良くしてほしい	6
前川教育部長 答弁	6
4番 伊藤咲和さん（佐和山小学校） 質問	7
福祉医療費助成を中学校3年生までに	7
和田市長 答弁	7
5番 平石優樹さん（平田小学校） 質問	8
読書通帳をはば広く使うことについての提案	8
前川教育部長 答弁	9
6番 伊藤二胡さん（稲枝西小学校） 質問	10
琵琶湖のゴミ問題について	10
北村市民環境部長 答弁	10
7番 栃山大翔さん（河瀬小学校） 質問	11

彦根市の福祉サービスの充実を	11
田澤福祉保健部長	答弁	11
8番 堀田悠介さん（高宮小学校）	質問	12
彦根城を世界遺産にするために	12
安藤副市長	答弁	13
9番 村松愛彩さん（城南小学校）	質問	14
議員の方々は会議以外の時、どのようなお仕事をしているのかについて	14
矢吹議場開放促進委員会委員長	答弁	14
10番 西澤悠希さん（亀山小学校）	質問	15
プールに屋根を設置してほしい	15
前川教育部長	答弁	16
11番 三浦七美さん（城西小学校）	質問	16
学校図書指導員さんの配置について	16
西嶋教育長	答弁	17
12番 赤田煌羽さん（稲枝北小学校）	質問	17
稲枝の地域のみinnで仲良く～小中一貫の実現に向けて	17
西嶋教育長	答弁	18
13番 村上愛唯さん（城南小学校）	質問	19
信号無視や信号機の音について	19
廣田都市政策部長	答弁	19
14番 出口翔梨さん（城陽小学校）	質問	20
市の医療について	20
金子病院事業管理者	答弁	20
15番 荒金快知さん（亀山小学校）	質問	21
私たちの身の回りの環境について	21
北村市民環境部長	答弁	22
16番 福原徳さん（稲枝北小学校）	質問	23
学校のグラウンドに人工芝を設置すること	23
前川教育部長	答弁	23
17番 中嶋元人さん（城北小学校）	質問	24
こう衣室の設置について	24
前川教育部長	答弁	25
18番 菅居咲希さん（城東小学校）	質問	25
タブレットで教科書を見られるように	25
西嶋教育長	答弁	26
19番 上田莉緒さん（若葉小学校）	質問	27

児童が少ない小学校の1年生を増やすために	27
安藤副市長	答弁 27
20番 堀部晃史さん（金城小学校）	質問 28
新しい競技場でみんなが参加できる運動会を	28
松宮スポーツ部長	答弁 28
21番 河村朱蓮さん（旭森小学校）	質問 29
市長の公約はいつどのような形で果たされるのか	29
和田市長	答弁 29
22番 田村侑晏さん（金城小学校）	質問 31
ゴミ箱を設置してきれいなまちに	31
北村市民環境部長	答弁 31
23番 林璃皇さん（城北小学校）	質問 32
通学路のガードレール設置について	32
關谷建設部長	答弁 32
24番 大城環希さん（鳥居本小学校）	質問 33
中学校の部活動について	33
西嶋教育長	答弁 34
閉会	34

令和 5 年 11 月 18 日

第14回彦根市子ども議会会議録

【 第 1 日 】

第14回彦根市子ども議会会議録

令和5年11月18日（土曜日）

議事日程

- 第1 会議録署名議員の指名
- 第2 会期の決定
- 第3 彦根市政について

本日の会議に付した事件

- 日程第1 会議録署名議員の指名
- 日程第2 会期の決定
- 日程第3 彦根市政について

会議に出席した議員（24名）

- | | |
|--------------------|--------------------|
| 1番 宮崎稜人さん（佐和山小学校） | 13番 村上愛唯さん（城南小学校） |
| 2番 林紗江さん（河瀬小学校） | 14番 出口翔梨さん（城陽小学校） |
| 3番 大菅征哉さん（稲枝東小学校） | 15番 荒金快知さん（亀山小学校） |
| 4番 伊藤咲和さん（佐和山小学校） | 16番 福原徳さん（稲枝北小学校） |
| 5番 平石優樹さん（平田小学校） | 17番 中嶋元人さん（城北小学校） |
| 6番 伊藤二胡さん（稲枝西小学校） | 18番 菅居咲希さん（城東小学校） |
| 7番 栃山大翔さん（河瀬小学校） | 19番 上田莉緒さん（若葉小学校） |
| 8番 堀田悠介さん（高宮小学校） | 20番 堀部晃史さん（金城小学校） |
| 9番 村松愛彩さん（城南小学校） | 21番 河村朱蓮さん（旭森小学校） |
| 10番 西澤悠希さん（亀山小学校） | 22番 田村侑晏さん（金城小学校） |
| 11番 三浦七美さん（城西小学校） | 23番 林璃皇さん（城北小学校） |
| 12番 赤田煌羽さん（稲枝北小学校） | 24番 大城環希さん（鳥居本小学校） |

会議に欠席した議員（なし）

議場に出席した事務局職員

- 事務局長 杉本弘之
- 事務局次長 若林善樹
- 書記 中村友規

会議に出席した説明員

市長	和田裕行さん	副市長	安藤博さん
スポーツ部長	松宮智之さん	総務部長	牛澤淳さん
市民環境部長	北村典彦さん	福祉保健部長	田澤靖壮さん
観光文化戦略部長	久保達彦さん	建設部長	關谷真治さん
都市政策部長	廣田進彦さん	病院事業管理者	金子隆昭さん
病院事務局長	速田智之さん	教育長	西嶋良年さん
教育部長	前川学さん	議場開放促進委員会委員長	矢吹安子さん

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、おはようございます。

本日は、第14回子ども議会にお越しをいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをさせていただきます。子ども議会取材のために、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承をいただきますようお願いいたします。また、保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただきますけれども、本会議の終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後をお願いいたします。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただきます。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

午前9時24分開会

○第1グループ議長（福原 徳さん） 最初に議長をします稲枝北小学校、福原徳です。よろしく申し上げます。

ただいまから第14回彦根市子ども議会を開会します。

ただちに会議を始めます。

日程第1 会議録署名議員の指名

○第1グループ議長（福原 徳さん） 日程第1、会議録署名議員を指名します。

会議録署名議員は1番宮崎稜人さん、2番林紗江さんを指名します。

日程第2 会期の決定

○第1グループ議長（福原 徳さん） 日程第2、会期の決定を議題とします。

お聞きします。今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日としたいと思います。これに異議はありますか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 異議なしと判断します。

今回の彦根市子ども議会の会期は、本日1日と決定しました。

日程第3 彦根市政について（一般質問）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 日程第3、彦根市政についてを議題とし、質問を行います。

24名の皆様から質問が提出されていますので、三つのグループに分かれて行います。

まず、第1グループの順番は、1番宮崎稜人さん、2番林紗江さん、3番大菅征哉さん、4番伊藤咲和さん、5番平石優樹さん、6番伊藤二胡さん、7番栃山大翔さん、8番堀田悠介さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

1番宮崎稜人さん。宮崎さん。

〔1番（宮崎稜人さん）登壇〕

○1番（宮崎稜人さん） 「冬に大きな一大イベントを開きいすることについて」

僕は、冬に大きな一大イベントを開催することを提案します。

ニュースを見ていると、イベントや祭りにはたくさんの方が来ています。彦根ではどのようなイベントや祭りを行っているのかと思い、観光交流課の方に聞いてみました。すると、春には桜や彦根城の梅林、夏には彦根ゆかたまつりや鳥人間コンテスト、秋にはご当地キャラ博やひこねの城まつりなどがあるということでした。

しかし、冬のイベントはとても少なく、秋などに比べて観光客の人数が少ないことも分かりました。だから、市民も観光客もみんなが楽しめるイベントやお祭りを開催すればよいのではないかと考えました。

今は近所の人顔や名前を知らないことが多いけど、祭りをするにはみんなが協力しないとできません。みんなで祭りを盛り上げれば、地域のつながりが生まれ、地域の人たちの仲が深まっていき、結果的にお互いに思いやり、みんなが優しい彦根市になると考えて、僕は冬に大きな一大イベントを開催することを提案します。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 観光文化戦略部長。

○観光文化戦略部長（久保達彦さん） 皆さん、おはようございます。

宮崎稜人さんからの「冬に大きな一大イベントを開きいすることについて」というご提案についてお答えをいたします。

ご指摘いただきましたとおり、私たちの住む地域での人と人とのつながりが薄くなっていたり、つながりそのものがなかったりしてきています。人と人のつながりをつくり、その結びつきを強いものとするためにイベントを活用しようというお考えはすばらしいことだと思います。

本市では、冬の時期に開催されるイベントが少ないのが現状です。これは本市に限ったことではありません。ぬくもりを感じられる春から夏、行楽シーズンである秋頃までの時期に多くのイベントが開催されるのは、皆さんが観光にお出かけするときには、お天気がよい日や過ごしやすい時期を選ばれるからであります。冬のイベントにお出かけされるのは、スキー場など冬ならではの会場だったり、雪や氷といった冬に扱いやすいものを使ったイベントだったりします。ただし、屋外のイベントの場合、大雪や吹雪など天気が悪いとお客様が集まらなかったり会場に行けなかったりするため、本市では冬に大きな一大イベントの開催はなかなか難しいと考えています。

市としての大きな一大イベントに限らず、地元地域での神社やお寺の行事をはじめ、自治会や隣近所などの住民の皆さんで行うバーベキューやお楽しみ会など、イベントの規模は小さくても、みんなが協力して何か一つのイベントを開催したり参加したりすることで、お互いを理解し、思い合える関係をつくることのできるのではないかと考えます。

ご提案にあったみんなが優しい彦根となるよう、これからも楽しいイベントを実施したり地域行事を支援したりしてまいります。ハードルは高いかもしれませんが、冬の大きな

一大イベントについても、みんなと一緒に考えて検討してまいりましょう。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 宮崎さん。

〔1番（宮崎稜人さん）登壇〕

○1番（宮崎稜人さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 2番林紗江さん。林さん。

〔2番（林 紗江さん）登壇、資料提示〕

○2番（林 紗江さん） 「タブレットを使いやすいように机を広くすることについて」

私は、机にタブレットや教科書、ノートを置くと、学校の机が狭くなり、学習に影響するので、学校の机を場所を取らない広い机にすることを提案します。

机を広くしてほしい理由は二つあります。

一つ目の理由は、タブレットを落としてしまうからです。タブレットを使った学習では、すぐに調べることができ、とても便利です。私が3年生のときに初めてタブレットが導入されました。そのときと比べると使うことが増え、1日3時間ほど使っています。しかし、教科によっては、教科書、ノート、資料集、タブレットを使うことがあり、クラスの中には、気をつけていてもタブレットを落としてしまった人もいます。

二つ目の理由は、教科書、ノートなどを置くとノートが書きづらく、タブレットの操作がしにくいからです。そのため、机を広くしてほしいと思っています。

ただ、机が広くなると、教室でみんなで遊ぶときに教室が狭くなってしまいます。このことから、ただ机を広くするだけでなく、教室が狭くならないように工夫された机があるといいと思います。例えば、机を広くしたいときに簡単に広げることができ、使わないときには折り畳める机があるといいと思います。

だから、私は、学校の机を場所を取らない広い机に替えることを提案します。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 教育部長。

○教育部長（前川 学さん） 林紗江さんからのタブレットを使いやすいように机を広くすることについてお答えいたします。

林さんが、学習者用端末、タブレットを1日3時間程度利用され、積極的に調べ物学習をされていることは素晴らしいことです。また、学習を進める中での気づきから、さらに学習がしやすくなる提案をいただき、ありがとうございます。

本市では、3年前から小・中学校でタブレットを使って学習を進めていますが、その中で、タブレットを教科書やノートと同時に使用すると机が小さいという課題も見えてきました。

そのため、教育委員会では、学習机がよりうまく使えるよう、モデル校を指定して、机の使い方についていろいろ考えてきました。林さんから提案されたような、取り外し式の補助台等も考えてみましたが、机を重ねにくかったり、グループ学習がしにくくなるというご意見がありました。

その他の方法についても検討した結果、大きさが奥行き45センチメートル、幅65センチメートルの今の机よりもそれぞれ5センチメートル大きい机を1年ごとに1学年ずつ整備することといたしました。今年度から新しい机を中学校3年生の教室に導入したところ、机に教科書とタブレットを同時に広げることができるようになってよかったというご意見をいただきました。

この大きい机につきましては、これから順番に整備をしていく予定ですので、少しお待ちいただくこととなりますが、今後も、皆さんが気持ちよく学習を進めていけるように学習環境を整えていきたいと考えています。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 林さん。

〔2番（林 紗江さん）登壇〕

○2番（林 紗江さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 3番大菅征哉さん。大菅さん。

〔3番（大菅征哉さん）登壇〕

○3番（大菅征哉さん） 「小学校の設備を良くしてほしい」

僕は、彦根市内の小・中学校の設備をよりよくして、みんなが安心して毎日を過ごせるようにすることを提案します。

例えば、黒板をスライド式にしたり、水道や電気を自動化したりして、誰もが使いやすいようにすることです。黒板をスライド式にすることで、背の高さに関わらず誰でも使えるようになります。僕は周りと比べて身長が低いので、高いところに書きにくかった経験があります。また、水道や電気を自動化することは、無駄をなくすことができると同時に、ユニバーサルデザインの観点からも大切です。水道や電気の自動化は、近江八幡市では実現しています。

このようなことから、僕は、小・中学校の設備をよくして、みんなが安心して過ごせる学校にすることを提案します。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 教育部長。

○教育部長（前川 学さん） 大菅征哉さんからの「小学校の設備を良くしてほしい」についてお答えいたします。

皆さんが安心して過ごせるためにご提案をいただき、ありがとうございます。

まず、現在の黒板をスライド式の黒板に変更する場合、新たな黒板の設置に併せて壁の補強も必要となる工事になるため、多くの費用がかかります。そのため、学校全体を改修する大規模な工事に合わせて順次導入していこうと考えています。

次に、水道栓の自動化について、大菅さんが指摘されているとおり、水道栓を自動化した場合、水の無駄遣いを防ぐことができますが、自動水栓を設置するには、普通の水道栓に比べておよそ15倍の費用がかかります。このため、学校の水道栓を全て一度に自動化することは難しいですが、皆さんがよく使う場所の水道栓の自動化を進めているとともに、

今後も学校の大規模な改修工事を行う場合に合わせて進めていきたいと考えております。

最後に、照明といった電気の自動化については、教室などの照明は人が動くことをセンサーで感知するため、ついたり消えたりしてしまうので、自動化は難しいです。一方で、トイレや廊下の照明については、消し忘れを防ぎ、省エネルギーを進めるためにも、自動化した方がよいと考えられます。しかしながら、これについても多くの費用を必要とすることから、学校の大規模な改修工事を行う場合に合わせて進めていきたいと考えております。

皆さんが安心して学校生活を送れるよう、今後、学校施設の整備を行うときに貴重な意見として参考にさせていただきます。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 大菅さん。

〔3番（大菅征哉さん）登壇〕

○3番（大菅征哉さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 4番伊藤咲和さん。伊藤さん。

〔4番（伊藤咲和さん）登壇〕

○4番（伊藤咲和さん） 「福祉医療費助成を中学3年生までに」

福祉医療費助成を中学3年生までにすることを提案します。

その理由は、進学するときに、制服やリュックサック、自転車を買わないといけない人も多いからです。また、中学生になると、部活動やクラブチームでの活動が始まり、それに必要なものを買ったり、試合や発表会に行くための交通費がかかったりします。

私はテニス部に入りたいと思っています。テニスでは、ラケットやテニスのシューズ、ユニフォームが必要になってきます。そして、テニスの試合があるときは、行くときの交通費などもかかります。外での活動をする部活動は、日焼け止めも必要になります。こう考えると、中学生になったら始まる部活動でたくさんのお金がかかります。

活動の幅が広がると、けがや病気が増えたりします。そんなときにお金がかかると大変です。

ほかの市町では、中学3年生まで医療費が無料のところも多いです。例えば、同じ病気にかかっても、住んでいる地域が違うだけで医療費が大きく変わってきます。そうすると不平等だと思えます。

また、滋賀県では、高校生は無料にする予定と聞いています。中学3年生までですと、生まれてから高校進学まで、どの市町も医療費が無料になります。

そこで、彦根市でも福祉医療費助成を中学3年生までにすることを提案します。私たちが安心して生活できるためにお願いします。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 市長。

○市長（和田裕行さん） 伊藤咲和さんからのご質問にお答えします。

まず、答えから言いますと、来年4月から高校3年生まで通院医療費は無償化を目指し

ております。厳密に言うと、高校3年生までの医療費の無償化を市議会の皆さんにお願いするところになっています。

本当にこの重要な質問をいただきました。いろいろお金が要る中で、それで、特にこの医療費、市町によって、不平等だと思いますと。あるまちでは医療費が無償化なのに彦根はという、そういうのはあると思うんですけども、それは一応来年の4月からは滋賀県では解消されます。

ちなみに、ほかの市町でも、高校生、1回500円はもらいますよ、1,000円はもらいますよというまちもありますけど、彦根市はそれありません。ですから、いきなり県内ではトップタイになります。医療費、自己負担もなく、高校3年生まで無償化というのを今回これから来年度に向けて議会にお願いしていくところです。

本当にこの問題意識、この不平等、おかしいですね。こっちのまちはもらえてこっちのまちはもらえない。これは本当は岸田さんをお願いしないとイケない。それはおかしいですよ。それはやっぱり国の方でこういう市町で差が出ないように、岸田首相、どうかお願いしますという問題意識も持っていただきたい。当然我々も一生懸命汗をかきます。

それと、滋賀県が高校生を無料化しますと、こうおっしゃっていただいていたけど、正確には、滋賀県が高校に無償化の大部分は出しますよ、あとは市町でしてくださいとおっしゃっているので、我々市町、一生懸命汗かいて、仕組みづくりは市町がするんです。そして、その自己負担分も市町が負担して、一生懸命、彦根はなかなか人口が多いので、何とか4月に間に合うよう我々も汗をかいて、議会の皆さんにお認めいただきましたら、高校3年生まで彦根市は自己負担なく無償化になりますので、安心して少しでも暮らしていただけるように頑張りたいと思います。ありがとうございます。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 伊藤さん。

〔4番（伊藤咲和さん）登壇〕

○4番（伊藤咲和さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 5番平石優樹さん。平石さん。

〔5番（平石優樹さん）登壇〕

○5番（平石優樹さん） 「読書通帳をはば広く使うことについての提案」

僕は、読書通帳について二つの提案があります。

一つ目は、図書館で使っている読書通帳が学校の図書室などでも利用できるようにすることです。

僕は、読書通帳ができて読書の楽しさを感じ、本をたくさん読むようになりました。しかし、現在この読書通帳は図書館だけでしか利用することができません。学校の図書室でも利用できるようにすれば、学校で読んだ本も記録することができます。また、学校の中で、通帳の中のポイントが全てたまったら特典として図書カードなどがもらえるといった企画もできるかもしれません。読書通帳を学校でも使えるようにすることで、読書の推進

につながると考えます。

二つ目は、学校で使っていた読書通帳を中学生になってからも使えるようにするということです。

中学生でも使えるようにすれば、小学校での読書記録を残したままで中学校でも記録を残すことができます。自分自身の読書傾向や読書の履歴を振り返ることができるので、読書の意欲がさらに高まると思います。

僕は、4年生のときに読書通知をもらったことをきっかけに、読書が好きになりました。読んだ本が読書通帳にどんどんたまっていくのが楽しくなり、気づいたら330冊以上の本を読んでいました。このような経験から、読書通帳を幅広く使えるようにすれば、小・中学生が読書に親しむきっかけをつくることができるのではないかと考えます。

これら二つのことから、彦根市の小・中学生が読書に親しむきっかけになるように、僕は学校の図書室でも読書通帳が使えるようにすることと、小学生だけでなく中学生でも読書通帳が使えるようにすることを提案します。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 教育部長。

○教育部長（前川 学さん） 平石優樹さんからの「読書通帳をはば広く使うことについての提案」についてお答えいたします。

平石さんは、読書通帳をきっかけとして本をたくさん読んでおられ、通帳を活用いただいていることを大変うれしく思います。

さて、一つ目の、学校の図書室で読書通帳が使えるようにして、学校で読んだ本を読書通帳に記録し、ポイント特典として図書カードなどがもらえるということについては、本をたくさん読むことにつながる提案だとは思いますが、読書通帳は、子どもたちが確かな学力や豊かな心を身につけることを目指す取組の一つといたしまして、本や読書への関心を持ってもらえるよう図書館で導入したもので、特典を得るために読書をするのでは、導入の目的にそぐわないものと思います。

また、読書通帳機は図書館独自のシステムで利用いただいていますことから、市内17小学校に置くこととなった場合、それぞれの小学校で読書通帳機を利用するシステムを準備する必要がありますことから、対応することは難しいです。

二つ目のご提案につきましては、読書通帳は、小学生の読書活動の推進と図書館へ来館される動機づけとしまして市内の小学生の皆さんに配布したものでございます。これまでから大人の方からも要望がありますが、小学生の読書活動の推進のためにいただいた寄附をもとに開始した取組であるために、中学生以上に配布することは現時点では行っておりませんが、今後は継続して、読書通帳の使用を希望される中学生には、中学校卒業までは通帳を配布することを検討してまいりたいと考えています。

読書通帳をきっかけとして、一人でも多くの方が本に親しみ、その後も本を読み続けることを通じて様々なことに興味を持っていただければと考えます。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 平石さん。

〔5番（平石優樹さん）登壇〕

○5番（平石優樹さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 6番伊藤二胡さん。伊藤さん。

〔6番（伊藤二胡さん）登壇、資料提示〕

○6番（伊藤二胡さん） 「琵琶湖のゴミ問題について」

私は琵琶湖のごみ問題について提案します。

私は琵琶湖の近くに住んでいます。コロナウイルスの影響もあり、琵琶湖を利用する人が増えました。利用する人が増えるのはうれしいですが、それと同時にごみがたくさん浜に打ち上げられてしまっているのをよく見かけます。世界でもプラスチックごみが問題になっていますが、彦根市ではこのごみ問題に対してどのように対策をされていますか。

私は、滋賀県の琵琶湖のごみの中でビニール袋のごみが多いことをインターネットで知りました。また、アメリカやニューヨークでは、ペットボトルを使った飲物の販売が禁止されていました。同じようにビニール袋の販売をなくしてしまうと、お買物が不便になります。

そこで、私は、彦根市で共通のエコバッグを作って、どの店でも借りることができて、どの店でも返すことができるような仕組みにすることで、袋を捨てる人が減ると思います。ですが、返してまた借りてを繰り返す際、コロナ、衛生面的に環境に悪いので、私は消毒してまた借りるという流れにすることで、また安心してエコバッグを利用できると思いました。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（北村典彦さん） 伊藤二胡さんからの「琵琶湖のゴミ問題について」のご質問にお答えをいたします。

伊藤さんがおっしゃるとおり、琵琶湖の浜ではごみが打ち上げられているのを見かけることがあります。その中には、スーパーのレジ袋のようなビニール袋やお菓子の袋などのプラスチックごみを多く見かけます。浜で見かけるごみは、その場でポイ捨てされたものばかりではなく、琵琶湖に注ぐ川の上流から流れてきているものもあります。

彦根市では、ごみのポイ捨てに対する対策といたしまして、市や市民の皆さんなどが実施するボランティア清掃の活動を通して、ごみをポイ捨てしない、自分が出したごみは持ち帰って捨てるといったマナーの向上を呼びかけています。また、多くの団体には、ボランティア清掃を実施していただけるよう、ごみ袋の支給やごみ処理にかかる費用の支援を行っております。

ポイ捨てごみとして見かけるレジ袋ですが、令和2年7月から全国的に有料化となりまして、無料ではもらえなくなりました。琵琶湖があるこの滋賀県では、それよりも前の平成25年からレジ袋をもらわないマイバッグ持参運動の取組を始めており、現在、レジ袋を断られる方は90%以上になっております。つまり、ほとんどの人がマイバッグを持参して

おり、ビニール袋を使わない買物に取り組んでいただいております。

伊藤さんがご提案されるどこでも貸し借りできるエコバッグは、マイバッグを持たない残りの約10%の人がレジ袋を使わないようにするための大変興味深いアイデアだと思いますので、今後の対策の一つとして参考にさせていただきたいと思います。

ポイ捨てごみはなかなかゼロにはなりません、今回の伊藤さんの質問をきっかけに、多くの方が琵琶湖のごみ問題を考え、きれいな湖岸の景色を守る意識と行動につながっていけばと期待をしております。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 伊藤さん。

〔6番（伊藤二胡さん）登壇〕

○6番（伊藤二胡さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 7番栃山大翔さん。栃山さん。

〔7番（栃山大翔さん）登壇〕

○7番（栃山大翔さん） 「彦根市の福祉サービスの充実を」

僕は、彦根市の福祉サービスをもっと充実させることを提案します。

僕はおじいちゃんとおばあちゃんと暮らしていて、元気で健康で長生きしてほしいと思っています。そのためには、福祉サービスが充実することが欠かせないと思います。福祉サービスを受けたい人が受けられないという現状があって、その背景には職員の人手不足があります。

福祉サービスをもっと充実させるために、二つのことを提案します。

一つ目は、彦根市からの福祉サービスへの援助を増やすことです。援助が増えると、そこで働いている人の給料も上がって、福祉の仕事に就きたい人が増えると思うからです。

二つ目は、今、福祉の業界で外国人が働いていることがあります。彦根に来る外国人を増やすために、外国人が暮らしやすい環境をつくる。この二つを提案します。

このことが実現し、若者から高齢者までが元気で気持ちよく過ごしたらいいなと思います。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 福祉保健部長。

○福祉保健部長（田澤靖壮さん） 栃山大翔さんからの「彦根市の福祉サービスの充実を」についてお答えします。

栃山さんがおっしゃるとおり、全国的に福祉サービス事業所で働く人は足りない状況で、本市においても同様です。

栃山さんからご提案をいただいております、一つ目の福祉サービス事業所やそこで働く人への援助につきましては、国が全国で統一して職員に対する賃金の改善を実施していて、国をはじめ滋賀県や本市もそのお金を出し合っています。また、来年度も職員の賃金を上げるよう、現在、国が検討しているところです。

本市では、福祉の職場説明会を実施したり、福祉サービス事業所に関するパンフレット

や動画等を作成しホームページやY o u T u b eで紹介するなど、福祉の仕事に興味を持ってもらえるよう啓発に取り組んでいます。今後も福祉サービス事業所で働く人が増えるように努力してまいります。

二つ目の彦根に来る外国人を増やすために外国人も暮らしやすい環境をつくることにつきましては、本市では、外国人材の採用を希望する企業や就職を希望される外国人から相談があった場合には、滋賀県外国人材受入サポートセンター等の専門機関を紹介したり、市のホームページに外国人労働者向けの相談機関を紹介するなど、外国人の方が暮らしやすい環境づくりに努めています。

また、「ともにいきいきと暮らせるまち ひこね」を基本目標とした第2次彦根市多文化共生推進プランに基づき、両親またはどちらか片方などが日本以外の国出身の人々に対し、生活、就労、教育、保育、コミュニケーション等への支援、国籍を問わずみんなが共に暮らすことについて生じる課題への対応を行っており、今後もその充実に努めてまいりたいと考えております。

市民一人ひとりが国籍や民族などによる文化や価値観の違いを認め合いながら、共に安心して暮らすことができる多文化共生社会の実現に向けた環境整備を一層推進してまいります。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 栃山さん。

〔7番（栃山大翔さん）登壇〕

○7番（栃山大翔さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） 8番堀田悠介さん。堀田さん。

〔8番（堀田悠介さん）登壇、資料提示〕

○8番（堀田悠介さん） 「彦根城を世界遺産にするために」

僕は、彦根城世界遺産にするために、もっと彦根城を楽しんでもらうことを提案します。

そのためには、ウェルカムセンターを造って彦根城のよさを知ってもらうことが必要だと考えました。

これは、岐阜関ヶ原古戦場記念館のグランドビジョンとVRシアターの写真です。僕は以前この記念館に行ったことがあるのですが、グランドビジョンでは、巨大な床面スクリーンで日本中を巻き込んだ関ヶ原の戦いの説明があり、VRシアターでは関ヶ原の戦いが再現され、まるで合戦当日の関ヶ原に紛れ込んだかのようなようでした。

この施設を参考にし、ウェルカムセンターでは、グランドビジョンで当時の彦根城とその周辺の様子と江戸時代の政治の仕組みを紹介し、VRシアターでは城下町から彦根城へといろいろな文化財を紹介して、江戸時代にタイムワープしたような気持ちになってもらいたいです。

施設は景観のことも考え、昔の建物をイメージしたものにするとういこととします。また、荷物を預けたり体験コーナーの受付ができたりすることで、観光しやすくしたいと思いま

す。さらに、自由展示の場所をつくり、半月に1校ずつ小・中学校で回していくと、市民の人にとっても身近な施設になると思います。

この施設は、世界遺産を生かしたまちづくりにもつながると考えます。場所は、彦根市民会館辺りが広くて便利だと思います。

以上のことから、僕は彦根城世界遺産にするためにウェルカムセンターを造ることを提案します。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） 堀田悠介からの彦根城を世界遺産にするためのウェルカムセンターの設置についてお答えいたします。

彦根城やその周辺で岐阜関ヶ原古戦場記念館のような新しく大きな建物を建設することは、費用の面やスペースの面で厳しいと考えております。

ただし、世界遺産条約では、世界遺産に登録された後にビジターセンターを設置することが求められています。ビジターセンターは、来られた方に対して遺産の重要性や歴史、保存管理や周辺を見学する際のマナーについて情報発信し、国際的な情報共有を図るための施設であり、地域住民が世界遺産に関する活動に参加する場所としてその役割も期待されている大変重要な施設です。

このため、ビジターセンターをどのような施設にするかといった研究は、事前に十分しておかなければなりません。今回ご提案いただいた映像による情報提供やVR等の最新技術による体験や体感、小・中学校の生徒の方々による施設活用といったことは、ビジターセンターのあるべき姿で、大変参考になると考えています。

今回ご提案いただきました素晴らしいご意見を参考にしながら、今後、世界遺産のビジターセンターについて研究してまいります。

なお、情報発信の向上は、現時点でも世界遺産登録のアピールになると考えておりますので、現在行っています情報発信方法についても、ご提案いただいた内容を参考にしながら工夫を加えていきたいと考えています。

○第1グループ議長（福原 徳さん） 堀田さん。

〔8番（堀田悠介さん）登壇〕

○8番（堀田悠介さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第1グループ議長（福原 徳さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（杉本弘之さん） お知らせします。休憩時間は10分程度といたします。

午前10時08分休憩

午前10時16分再開

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、こんにちは。

本日は、第14回子ども議会にお越しをいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをいたします。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承くださいますようお願いをいたします。また、保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただいておりますが、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後をお願いをいたします。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただいております。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をよろしくお願いたします。

○第2グループ議長（大城環希さん） 議長を交代しました。鳥居本小学校、大城環希です。よろしくお願いたします。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第2グループの順番は、9番村松愛彩さん、10番西澤悠希さん、11番三浦七美さん、12番赤田煌羽さん、13番村上愛唯さん、14番出口翔梨さん、15番荒金快知さん、16番福原徳さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

9番村松愛彩さん。村松さん。

〔9番（村松愛彩さん）登壇〕

○9番（村松愛彩さん） 「議員の方々は会議以外の時、どのようなお仕事をしているのかについて」

私は、議員の方々は会議以外のとき、どのようなお仕事をしているのかについて質問をします。

私のイメージは、議員さんたちは議会で話合いをしているイメージがとても強いです。しかし、会議以外のとき、実際にどのようなお仕事をし、みんなが住みやすいと思えるまちをつくらしているのかなと疑問に思いました。

私は、学校やまちの人たちから相談などを受けて、実際に学校へ行ったりまちへ出たりして現状を見て、相談をしてもらったことについてどうするか考えていると聞きました。このことを聞いて、道路の整備や木の枝を伐採しているのはまちの人たちからの願いで、実際に相談されたことをかなえているのかなと思いました。

しかし、相談されたことをかなえられなかった場合もあると思います。そういうときはどのようにしているのかなと思いました。相談されたことをそのまま放っておくわけにはいかないと思います。かなえられなかったことをどのように対処しているのか教えてください。

議員さんたちはどのようなお仕事をし、市民が住みやすいと思えるような工夫をしているのか教えてください。

○第2グループ議長（大城環希さん） 議場開放促進委員会委員長。

○議場開放促進委員会委員長（矢吹安子さん） 議場開放促進委員会委員長の矢吹安子です。

議員のお仕事に興味を持っていただきありがとうございます。今回は私が議員を代表し

て、村松愛彩さんからの「議員の方々は会議以外の時、どのようなお仕事をしているのかについて」の質問についてお答えいたします。

私たち議員は、村松さんがお話しされたように、この彦根市をより住みやすいまちにするために、市民の皆さんの声や願いを市に届け、反映させる役割を担っています。そのため、学校のことや道路整備など市民の方から相談や要望があれば、その現状を確認して、市役所の職員さんと話し合い、少しでも解決できるように頑張っています。

そのほかにも、市民の皆さんと直接お話しする議会報告会をしたり、進んだ取組を行っている他のまちに行き、話を聞き、その取組を研究した上で、彦根市でもこんな取組をしようかと市に提案するなど、彦根市を住みよいまちにするための勉強や資料づくりをしています。

しかし、市役所へは同じように困っている人からの相談がたくさんあり、また、どんなによい提案を行っても、市のお金は限られていますので、すぐに解決や反映できないことも多くあります。そのときは、できるだけ早く現在の市の取組や事情を相談者の方に丁寧に説明するようにしています。

また、議員は、今日子ども議員の皆さんのように、この議場で彦根市の取組について質問することができます。そのときに、前にお話ししたことの進み具合がどうなっているのかなどを確認したりもします。

これら議員の活動や質問の様子をまとめた「議会だより」というお知らせを年4回、皆さんの自宅に配布していますので、ぜひ村松さんも確認してみてください。

○第2グループ議長（大城環希さん） 村松さん。

〔9番（村松愛彩さん）登壇〕

○9番（村松愛彩さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大城環希さん） 10番西澤悠希さん。西澤さん。

〔10番（西澤悠希さん）登壇、資料提示〕

○10番（西澤悠希さん） 「プールに屋根を設置してほしい」

僕は、彦根市内の小・中学校のプールに屋根を設置することを提案します。

僕は亀山小学校に通学しています。亀山小学校のプールには、このように屋根が設置しておらず、そのせいでごみが乱入し、掃除が大変になったり水質の悪化につながったりしています。また、雨が降ると水泳学習が中止になり、予定どおり学習が進まなくなるというデメリットが生じてしまいます。さらに、屋根を設置することで、プールの授業中に直射日光が当たることを避け、熱中症の対策にもなります。

確かに費用はかかるかと思いますが、こうしたデメリットをなくし、大きなメリットを生み出すことができるので、屋根を設置することを提案します。また、具体的にどれくらい費用がかかるのかも分かれば教えてください。

○第2グループ議長（大城環希さん） 教育部長。

○教育部長（前川 学さん） 西澤悠希さんからの「プールに屋根を設置してほしい」についてお答えします。

よりよい学校環境のためにご提案をいただき、ありがとうございます。

ご提案いただいたように、プールに屋根をつけると天候に左右されず、直射日光を浴びずに授業を受けることができます。

しかしながら、現在学校にあるプール全体を覆う大きな屋根を造るとなると、安全面から簡単なものではなく、年間を通して強風や積雪にも耐えることができる丈夫なものであればなりません。また、今あるプールに後から屋根を設置する場合、柱などの設置場所の確保やプールの形に合わせた屋根の材料の組合せ方を建築の専門家に認めてもらう必要があるなど問題があり、それらの問題を解決しようとする多くの費用がかかることが見込まれます。

なお、屋根を設置する具体的な費用につきましては、屋根設置のための詳しい検討をしておりませんのでお答えすることはできませんが、通常、屋根つき屋内プールを一つ建てる場合の費用については数億円になると思われます。

そのため、プール全体に屋根をつけるのではなく、プールサイドにパーゴラと呼ばれる日除けの場所を設けたり、学校によってはテントを設置したりして、そこで直射日光を避けるなどして対応していくこととしております。

今後も、皆さんが安全に学校生活を送れるよう、よりよい学校環境の整備に努めていきたいと考えております。

○第2グループ議長（大城環希さん） 西澤さん。

〔10番（西澤悠希さん）登壇〕

○10番（西澤悠希さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大城環希さん） 11番三浦七美さん。三浦さん。

〔11番（三浦七美さん）登壇、資料提示〕

○11番（三浦七美さん） 「学校図書指導員さんの配置について」

私は、学校の図書室に愛荘町のように毎日学校図書指導員さんを配置し、いつ図書館に行っても図書館が利用できる状態にしておくことを提案します。

私が通っている城西小学校では、図書委員が中休みと昼休みに図書室を開けることになっています。しかし、いろいろな理由で、図書室に行っても開いていないことがあります。

今は週に1度、読書活動支援員さんが来てくださっていますが、気軽に図書室に行っても本を借りたり、本の相談やお薦めの本を聞くことができるように、毎日学校の図書室に学校図書指導員さんを配置してほしいです。

最近ではゲームなどのメディアを使う時間が増えています。私の周りを見ても、本を余り読まない人が増えていると感じています。

現在、既に愛荘町がこの仕組みを導入しており、本の貸出しや紹介以外にも、図書室の

整備や授業のサポートなどが行われています。愛荘町では、このデータのように学校の図書室の貸出し冊数が増えました。この取組を行うことで、彦根市でも気軽に図書室が利用でき、読書量が増えるのではないのでしょうか。

このことから、私は学校の図書室に学校図書指導員さんを毎日配置しておくということを提案します。

○第2グループ議長（大城環希さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 三浦七美さんからの学校図書指導員さんの配置についてお答えします。

質問内容からは、日頃から三浦さんが学校の図書室を積極的に活用している様子がよく分かり、とても頼もしく思いました。

紹介されましたように、愛荘町では町立図書館から町内の小学校に図書指導員を派遣されているそうです。

彦根市では、学校図書館の充実のために、市内の小・中学校の全ての学校に読書活動支援員を派遣しています。人数は6名で、1人につき4校担当し、一つの学校に週1回または週2回派遣しています。学校図書室の整備や本の整理、図書の登録、図書の貸出し支援、掲示物の作成や本の紹介などをしてくださっており、愛荘町の図書指導員と同じような業務内容となっています。

三浦さん提案のとおり、毎日読書活動支援員の方に来ていただいて、児童の皆さんが本のことについて聞くことができたり相談できたりすると、読書に親しむ人が増えると思います。皆さんが読書を通じて豊かな時間が増えることは、豊かな生活を送るためにも大切なことであると考えています。

彦根市では、全ての学校に毎日読書活動支援員を配置することは難しいですが、読書活動支援員の配置を少しずつでも充実できるよう、今後検討していきたいと考えております。

○第2グループ議長（大城環希さん） 三浦さん。

〔11番（三浦七美さん）登壇〕

○11番（三浦七美さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大城環希さん） 12番赤田煌羽さん。赤田さん。

〔12番（赤田煌羽さん）登壇、資料提示〕

○12番（赤田煌羽さん） 「稲枝の地域みんなで仲良く～小中一貫の実現に向けて」

僕は、稲枝のみんなで仲良く、小中一貫校に向けて動き出すことを提案します。

この資料を見てください。稲枝の学校の全校人数です。今、稲枝の子どもの人数は減ってきています。僕は、小中一貫にすることで、ずっと一緒に勉強したり遊んだりして楽しい学校生活を送ることができるのではないかと考えました。

具体的な方法として、次の3点について提案します。1、保護者の方々や地域の方々にアンケートをする。2、学校の場所を決める。3、具体的な学校像について話し合いをする。

一つ目の保護者の方々や地域の方々にアンケートをすることは、稲枝に住んでいる皆さんの意見を聞くことにより、賛成か反対かが分かります。さらに、小中一貫にしたいことがお伝えできます。

二つ目の建てる場所を決めることは、稲枝中学校にすると距離が平等になります。距離が遠くなってしまう人も出てくると思うので、自転車通学にしたらいいと思います。また、低学年は自転車通学が危険なので、安全を考えてバス通学にしたらいいと思います。

三つ目の具体的な学校像について話し合いをすることにより、どれだけの教室、どれだけの先生を集めたらいいかが分かります。だから、小中一貫校を実現させられるように近づけられます。

以上の3点について話し合いを進めていくことで、小中一貫に向けて大きな一歩が踏み出せると思います。

○第2グループ議長（大城環希さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 赤田煌羽さんからの「稲枝の地域のみinnで仲良く～小中一貫の実現に向けて」についてお答えいたします。

赤田さんが自分の考えを明らかにしながら稲枝地域の将来を考えておられることについて、大変頼もしく思います。

赤田さんが提案されているように、稲枝地域に小中一貫校を設置できれば、子どもたちにとっては9年間を通しての学びとなり、いろいろな年齢の子どもがいることで、子どもたち同士の多様なつながりが生まれることが考えられます。

一方で、稲枝東小学校、稲枝西小学校、稲枝北小学校の3校は、それぞれ歴史のある学校で、地域の方が地元の学校に愛着を感じながら、地域の子ども・学校を大切に守り育ててこられ、地域への誇りを持たれていることもあり、自分の住む町から学校がなくなることに対し寂しく思われる方がおられることも考えられます。

これからの稲枝地域の学校をどのようにしていくのかについては、今ある三つの小学校と一つの中学校が一つの学校となる小中一貫校の設置のほかにも、中学校はそのままにして三つの小学校が一つになる、あるいは、学校の数は変えずに一緒に教育活動に取り組むことを増やすなど、いろいろなやり方があると思います。

また、学区の編成は、地域の生活の基盤になるものでもあります。そのため、通っている子どもだけではなく、地域住民の皆さんの合意を基に進めていくことが大切ですので、地域住民の皆さんの思いや考えをまとめていただくことも重要であると考えます。そして、これからの稲枝地域の学校の在り方について、地域住民の皆さんと一緒に考えていきたいと思ひます。

赤田さんがこれからも地域に関心を持ち、よりよい学校づくり、地域づくりに貢献して下さることを期待しています。

○第2グループ議長（大城環希さん） 赤田さん。

〔12番（赤田煌羽さん）登壇〕

○12番（赤田煌羽さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大城環希さん） 13番村上愛唯さん。村上さん。

〔13番（村上愛唯さん）登壇、資料提示〕

○13番（村上愛唯さん） 「信号無視や信号機の音について」

私が登校班の班長として頑張っていることは、安全に班のみんなを学校まで連れていくことです。そのために、低学年には建物の方を歩いてもらって、高学年は道路側を歩いてもらうなどの工夫をしています。しかし、班長として努力をしても乗り越えられない心配をしています。

それは、信号無視をする車があることです。登校班で登校しているとき、班長旗を広げて横断歩道の真ん中に立って班のみんなに渡ってもらいますが、私が立つ前に信号無視され、班の子がひかれそうになったことがありました。このままだと事故が起こってしまいます。

だから、私から二つ提案があります。

一つ目は、毎朝とは言いませんが、1週間に2、3日、警察官の方に来てもらって見守ってほしいです。警察官の方がいると信号無視も起こらないだろうし、事故も少なくなると思います。

二つ目は、信号機の音です。私がよく通る消防署の前の信号は、歩行者が渡っている間に鳴ります。音が鳴ることで運転者側が気づきやすくなるし、歩行者にとっても信号を意識しやすくなります。そこで、プロシードアリーナなどのたくさん車が通る公共の場の信号も音が鳴るようにしてほしいです。

私は友達と話していて、いつの間にか信号が変わっていて、渡るタイミングを見逃してしまったことがあります。音が鳴ってくれると気づきます。ほかにもいいことがあります。それは、目が不自由な方は、音で渡っていいのか渡ってはいけないのかが分かりやすくなると思います。

このように、信号無視などの事故を解決するには、週に2、3回ほど警察官の方がいてくれること、そして、車がたくさん通る信号には音をつけた方がいいと思いました。この二つのことを実行してくれると、事故が起こることが少なくなると思います。よろしくをお願いします。

○第2グループ議長（大城環希さん） 都市政策部長。

○都市政策部長（廣田進彦さん） 村上愛唯さんからの信号無視や信号機の音についてお答えします。

村上さんの二つのご提案につきまして彦根警察署に相談しましたところ、まず、信号無視などの事故を解決する方法として、週に2、3回ほど警察官がいてくれるというご提案につきまして、「通勤通学時間帯の皆さんの通学路の見守り活動について、適宜、警察官をはじめ、おうみ通学路アドバイザー、各学区のボランティアの方々のご協力を得なが

ら実施しており、警察では、今後も引き続き、信号のある交差点をはじめ、交通事故の多い場所や通学路等において、交通指導取締りをして、交通ルールを守ってもらえるように努めていきます」というお答えをいただきました。

次に、運転手への気づきや、歩行する皆さんにとっても信号を意識しやすくなることから、車がたくさん通る信号には音をつけた方がいいというご提案につきましては、「音が鳴る信号機は、視覚障害者に対して、歩行者用信号機が青のときにピョピョまたはカッコーという音で横断ができることをお知らせする視覚障害者用付加装置がついているもので、視覚障害者がよく利用される場所の周辺に優先的に設置されており、今後も必要性が高い交差点については設置を検討していきます」というお答えをいただきました。

車のたくさん通る交差点のうち、まず、資料にもありますプロシードアリーナ南側の信号機に、視覚障害者用付加装置の設置を彦根警察署へ要望してまいりたいと考えております。

今回の村上さんのご提案は、登校班長として日頃から班の皆さんの安全を考えての貴重なご提案であると認識しております。今後も、彦根警察署や関係する皆さんと共に、市民の皆さんに交通安全を呼びかけ、安心・安全なまちにできるように努めてまいります。

○第2グループ議長（大城環希さん） 村上さん。

〔13番（村上愛唯さん）登壇〕

○13番（村上愛唯さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大城環希さん） 14番出口翔梨さん。出口さん。

〔14番（出口翔梨さん）登壇〕

○14番（出口翔梨さん） 「市の医療について」

市の医療について提案します。

僕が住む町にはとても大きい病院があります。それは彦根市立病院です。その彦根市立病院は僕の家から車で数分程度で行けます。ですが、住んでいる町によっては、病院から家が遠い人や車を所持していない人がいます。

そこで、僕が考えたのは医療バスシステムです。病院になかなか行けない人のため、各町の病院に医療バスを設置すると、遠い家の人も車を持っていない人も利用できます。このように医療バスを各町に提供してもらいたいと考えています。こうすれば、彦根市全員が安心して暮らすことができます。

そして、医療バスが回る地域についてです。病院が多い地域は回る回数を少なめにして、病院が少ない地域は回る回数を多めにしてほしいと思っています。なぜなら、病院が少ない町の人たちが安心できるからです。

ぜひこの医療バスシステムを取り入れてもらえるよう提案します。

○第2グループ議長（大城環希さん） 病院事業管理者。

○病院事業管理者（金子隆昭さん） 出口翔梨さんの彦根市立病院で医療バスシステム

を取り入れることについてのご質問にお答えします。

出口さんからのご提案の医師を乗せたバスが各町を回るという医療バスシステムについては、出口さんからの提案の説明の中にもありましてとおり、市民の皆さんの誰もが安心して暮らすためのとてもすばらしい提案であると思います。

実際に、長野県伊那市などでは、医師不足や過疎化、高齢化などの問題に対応するため、看護師などの医療スタッフが乗車した移動診察者が患者さんのご自宅に出向き、車内のテレビ電話を用いて診療所にいる医師が患者さんを診察するといった取組が実験的に進められている様子です。

彦根市を含む湖東地域でも医師や看護師の不足は問題となっていますが、現在、彦根市立病院では、専門的な治療や手術、入院、また、救急の患者さんへの対応を中心的に行い、日常的な病気やけがの治療については、町の診療所やクリニックの先生に対応いただくという役割分担を行うことで、お互いに連携して市民の皆さんの医療を支えているところです。

このような中で、市立病院の医師や看護師が医療バスに乗ってしまうと、病院で専門的な治療を必要とする患者さんに対応する医師や看護師が足りなくなるなど、本来市立病院が担う役割を果たせなくなるおそれがあります。そのため、ご提案の医療バスシステム、市立病院ですぐに導入することは難しいと考えています。

しかしながら、出口さんご提案の医療バスシステムは、高齢化や医師不足に対応するための選択肢の一つでもあると考えられますので、今後、ほかのまちの取組なども参考にしながら、市民の皆さんの誰もが安心して暮らすことができるよう、地域全体でふさわしい医療の在り方を検討していきたいと思います。

○第2グループ議長（大城環希さん） 出口さん。

〔14番（出口翔梨さん）登壇〕

○14番（出口翔梨さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大城環希さん） 15番荒金快知さん。荒金さん。

〔15番（荒金快知さん）登壇〕

○15番（荒金快知さん） 「私たちの身の回りの環境について」

僕は、学校の周りの川にザリガニが多くいることや油が浮いていることが気になっていました。また、登下校のときに空き缶やお菓子の袋などのごみが道端に度々落ちていることも気になりました。僕は、水の汚染や生態系が乱れて固有種が減ったりすること、ごみが身の回りに落ちていることについてよくないと思っているので、次の二つのことを提案します。

一つ目は、イベントの開催があっても知らなかったり、イベントの人数制限で参加できないことがあったので、外来生物の駆除やイベントの開催を自分たちの使っているタブレットを通して地域の人に呼びかけたり、開催の頻度を増やしたりしてほしいと思います。

そうすることで、より多くの地域の方や県外の方の参加も増え、身の回りの固有種の減少を止め、生態系を管理することになると思います。そして、川や琵琶湖の水質の管理や水域の環境を守ることにもつながると思います。

二つ目は、ごみが散乱することで、見た目だけでなく人の環境にも生き物の環境にもよくないため、地域にごみ箱が置いていない、もしくは、少ないところにごみ箱を設置することを提案します。そのことによりポイ捨てが減り、環境への配慮にもなると思います。生き物のごみの誤飲も減り、生き物を守ることにともなると思います。

僕は、身の回りの環境について、この二つのことを提案します。

○第2グループ議長（大城環希さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（北村典彦さん） 荒金快知さんからの「私たちの身の回りの環境について」のご質問にお答えをします。

まず、一つ目のご提案につきまして、荒金さんがおっしゃるとおり、外来生物を駆除することは、固有種を守り、生態系を守ることにともつながります。

外来生物の駆除などのイベントといたしましては、滋賀県やボランティア団体などが開催されている外来魚を駆除する釣り大会などがありますが、そういったイベントの情報がありましたら、彦根市としてもイベントのチラシを市役所の窓口に置くなど、市民の皆さんにお知らせをしております。

イベントによっては人数の制限がありますが、多くの方に参加していただけることは、駆除できる量が増えるだけでなく、環境に目を向けていただける人が増えることにもつながり、とてもよいことだと思いますので、イベントなどの開催情報がありましたら、荒金さんのご提案を参考にして、より多くの方に情報が届くよう、タブレットやスマートフォンなどを使った情報発信の方法についても考え、工夫していきたいと思っています。

次に、二つ目のご提案につきまして、荒金さんがおっしゃるとおり、ごみ箱をいろいろな場所に設置すれば、ごみはごみ箱に捨てるという意識が高まり、ポイ捨てごみが減って、生き物が住みやすい環境になることが期待されます。

その一方で、ごみを分別せずに捨てたり、家庭で処分しなければならないごみを持ち込んだりするようなマナーやルールを守らない人もいて、ごみ箱を増やすとごみの分別や処理に大きな手間がかかってしまうという問題もあるため、まずは、自分が出したごみは持ち帰って捨てる、ごみはしっかり分別して捨てるといったマナーをみんなが守れるよう呼びかけ、協力をお願いしていきたいと考えています。

彦根市が人も生き物も暮らしやすいきれいな環境となりますよう、荒金さんのご提案を参考に、イベント情報の発信やマナーの啓発を行っていききたいと思いますので、ご協力をお願いいたします。

○第2グループ議長（大城環希さん） 荒金さん。

〔15番（荒金快知さん）登壇〕

○15番（荒金快知さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。(拍手)

○第2グループ議長(大城環希さん) 16番福原徳さん。福原さん。

[16番(福原 徳さん)登壇]

○16番(福原 徳さん) 「学校のグラウンドに人工芝を設置すること」

僕は、学校のグラウンドに人工芝を設置することを提案します。

僕たちの学校ではとても広い運動場があり、休み時間にはいつもみんな元気に外遊びをしています。しかし、元気に遊んでいると、どうしてもけがにつながってしまいます。

保健の先生に4月と5月のけがをした人の人数を聞くと70人でした。そのうち運動場でけがした人は29人と多いことが分かりました。けがの内容を見てみると、ほとんどが手足の擦り傷でした。

日本の学校では、運動場を人工芝にしている学校が増えています。人工芝の特徴としてクッション性があり安全性が高いことから、けがの予防につながるということです。また、人工芝のクローバーターフは、芝のメンテナンスがほぼ不要、雨が降っても水はけがよくなるなど、いろいろなメリットがあります。

僕たちのよりよい学校生活のために、学校のグラウンドに人工芝を設置することを提案します。

○第2グループ議長(大城環希さん) 教育部長。

○教育部長(前川 学さん) 福原徳さんからの「学校のグラウンドに人工芝を設置すること」についてお答えします。

福原さんは、校内でけがをした人の数を先生に尋ね、グラウンドでけがをした人の割合とけがの原因を詳しく調べて、さらにその状況を改善するためのご提案をしてくださったことに大変感心いたしました。

福原さんのおっしゃるとおり、クッション性のある人工芝を設置しますと、けがの予防につながる可能性があります。また、日々のメンテナンスがほとんど要らない点や水はけがよいといった点は素晴らしいと思います。

一方で、例として挙げていただきましたクローバーターフなどの人工芝は、使い方にもよりますが、設置から5年程度で劣化してしまうこともあり、そのたびに張り替えのための工事が必要となり、その間はグラウンドが自由に使えなくなることとなります。また、工事を行うために多くの費用もかかります。

このほか、人工芝はプラスチックでできており水分を含まないため、夏場は表面温度が上がり熱くなります。対策として水をまけば少しは軽減されますが、時間がたつと再び水をまく必要があります。

このように、一つの問題を解決しようとするすると、その解決方法に対しては、よい点だけでなく、よくない点が出てくる場合もあります。そのため、ご提案いただいた人工芝の設置を行うことは、現時点では難しいと考えています。

今回のように、よりよい学校生活を送るためにはどうすればよいかを考え続ける福原さ

んの姿勢は、今後もぜひ大切にしていきたいと思えます。

○第2グループ議長（大城環希さん） 福原さん。

〔16番（福原 徳さん）登壇〕

○16番（福原 徳さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第2グループ議長（大城環希さん） しばらくの間、休憩します。

○議会事務局長（杉本弘之さん） お知らせします。休憩時間は10分程度といたします。

午前10時59分休憩

午前11時07分再開

○議会事務局長（杉本弘之さん） 皆さん、こんにちは。

本日は、第14回子ども議会にお越しをいただきましてありがとうございます。

ご来場の皆様方に何点かお願いをさせていただきます。子ども議会取材のため、議場内に報道機関が入って撮影をされますので、ご了承いただきますようお願いを申し上げます。また、保護者の皆様、傍聴者の皆様には、本会議中の撮影は傍聴席のみからとさせていただいておりますけれども、本会議終了後に撮影時間を設けておりますので、議場内での撮影は本会議終了後にお願いをいたします。

なお、議場内では飲食禁止とさせていただいております。また、携帯電話をお持ちの方は、電源を切っていただくか、マナーモードの設定をお願いいたします。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 議長を交代しました。高宮小学校、堀田悠介です。よろしく申し上げます。

休憩の前に続いて会議を開きます。

第3グループの順番は、17番中嶋元人さん、18番菅居咲希さん、19番上田莉緒さん、20番堀部晃史さん、21番河村朱蓮さん、22番田村侑晏さん、23番林璃皇さん、24番大城環希さんの順とし、順番に質問席まで来て質問してください。

17番中嶋元人さん。中嶋さん。

〔17番（中嶋元人さん）登壇〕

○17番（中嶋元人さん） 「こう衣室の設置について」

僕は、学校に男子更衣室、女子更衣室を別々に設置することを提案します。

僕の学校には更衣室が一つしかありません。なので、1、2時間目に体育がある場合は、女子は更衣室で着替えます。男子は教室で着替えます。このときに、遅れてきたり忘れ物を取りに来た女子たちがいる中で男子は着替えることになってしまいます。反対に、教室の男子が着替えに手間取っていたら、着替え終わった女子たちが入ってきてしまいます。ほかにも水泳用の男子更衣室があるけれども、そこも女子が使っており、男子は教室で着替えることになってしまいます。着替え終わった女子は暑い廊下で待つことになり、男子も女子もよいことはありません。

このように、別々に着替えるということが守れていない状況があります。そして、「まだ着替えているから入らないで」、「忘れ物ぐらい取らせてよ」などともめてしまうこともあります。

男子も女子もお互いが気持ちよく過ごすために、男子更衣室、女子更衣室のように、教室でない別々に着替える場所をつくる必要があると思います。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 教育部長。

○教育部長（前川 学さん） 中嶋元人さんからの「こう衣室の設置について」にお答えいたします。

現在、学校では体育の授業で着替えをする場合、更衣室として教室やプール更衣室の使用など、男女別々に着替えができるように、現在の環境の中で工夫して対応いただいていると思います。今の施設の中で更衣室を設置する場合は、現在のやり方のほかにも、時間割を考えながら一時的余裕教室の利用、図書室など特別教室の利用も考えられます。

新たに更衣室を設置することも考えられますが、その場合は建物を増やすこととなり、そのための場所の確保と工事をするための多くの費用が必要となるため、難しいと考えています。

忘れ物があつたときなどに困るということですが、お互いに相手のことを考えて、解決方法についてみんなで話し合っ規則を決めたり、学校の先生に相談したりしていくことで、よりよい学校生活を送ることができるのではないのでしょうか。

最後に、中島さんがこのように日頃思っていることを提案することは大切なことだと思いますので、今後ともこのような姿勢は大切にしてもらいたいと思います。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 中嶋さん。

〔17番（中嶋元人さん）登壇〕

○17番（中嶋元人さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 18番菅居咲希さん。菅居さん。

〔18番（菅居咲希さん）登壇、資料提示〕

○18番（菅居咲希さん） 「タブレットで教科書を見られるように」

私は、小学校で全ての教科書がタブレットで見られるようにすることを提案します。

理由は、タブレットに全ての教科書をダウンロードすれば、教科書がなくても、いつでもどこでもいろんな教科の予習や復習ができ、登下校のときの荷物も少なくなるからです。

私が通う城東小学校では、毎日タブレットを持ち帰って家庭学習に活用しています。また、持ち帰る必要のない教科書や教材などは学校に置いておいてもよいことになっていますが、私は毎日たくさんの教科書やノートだけでランドセルがいっぱいで、そこにタブレットが加わるととても重たく、週末はさらに体操服や上靴、給食エプロンなどが増え、習字やプールがあると両手いっぱい荷物になります。雨が降ると本当に大変ですし、夏は熱中症対策で日傘を差したくても難しいことがあります。

「荷物を置いておけばよい」、「持ち帰る必要はない」と思う人もいるかもしれませんが、自主勉強に使うかもしれません。自主勉強に使うものやテストがある教科などを考えてランドセルに入れるより、全部持ち帰った方が確実です。しかし、次の日も重たいランドセルを背負って登校しなければなりません。

そこで、タブレットで全ての教科書が見られるようになると、持ち帰るものがタブレットだけになり、登下校のときのランドセルがとても軽くなります。

さらに、タブレットを毎日持って帰っているとタブレットが壊れる可能性も高いです。そこで、タブレットが壊れにくい対策もしてほしいです。

以上の点から、私はタブレットで教科書を見られるようにすることを提案します。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 菅居咲希さんからの「タブレットで教科書を見られるように」についてお答えします。

城東小学校では、毎日タブレットを持ち帰り、家庭学習でも使っていることを大変うれしく思います。

タブレットは、ドリル学習に取り組んだり調べ学習で使ったり、とても便利なものですが、教科書と一緒に持ち帰るとどうしても重くなり、苦勞されていることがよく伝わってきました。

提案いただきました、「タブレットで教科書を見られるように」についてですが、今年度は全ての学校で試験的に英語だけタブレットを通して見られるようになりました。デジタル教科書は、紙の教科書のように見るだけでなく、例えば英語のデジタル教科書であれば、実際に発音を聞いたり実際の活用場面を動画で見たりでき、学習に役立ちます。

教科書は、どの子も平等に勉強できるように、皆さんからの税金を基に国から無償で提供いただいたものです。他の教科についても、できるだけ早くデジタル教科書として扱えるように、彦根市からも国にお願いをしています。

また、タブレットには、個人で利用することに限って、様々な情報を写真に収め活用できるよさがあります。学習に必要なページや資料などを写真に撮ることで、持ち帰る教科書類を減らす工夫も取り入れてみてはどうでしょうか。

なお、タブレットを破損から守る対策についてですが、皆さんにお渡ししているタブレット自体がお店で売られているほかのパソコンよりも丈夫なものになっています。例えば机ぐらいの高さから落ちた場合や、学校の外で使うことも考えた丈夫なつくりになっています。ただ、機械の性質上、どうしても壊れることがありますので、皆さんと声をかけ合って大切に使用していただきたいと思います。

今後も、皆さんが気持ちよく学習を進めていけるように、学習環境を整えていきたいと考えています。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 菅居さん。

〔18番（菅居咲希さん）登壇〕

○18番（菅居咲希さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 19番上田莉緒さん。上田さん。

〔19番（上田莉緒さん）登壇〕

○19番（上田莉緒さん） 「児童が少ない学校の1年生を増やすために」

私は、児童が少ない学校に児童が多い学校の1年生を分けてもらうことを提案します。

その理由は、私が通っている若葉小学校の児童数が減ってきているからです。若葉小学校に入学してくる1年生の人数が少なくなってきた、開校当時の児童数は601人だったのに対して、今の児童は155人と約4分の1に減っています。

これまで運動会の色は赤、青、黄の3色だったのですが、とうとう今年から赤と青の2色になってしまいました。縦割り活動も、グループの数が減ってきてとても寂しいです。また、どの学年も一クラスしかないのも、クラス替えをしたことがありません。一度もクラス替えをしたことがないので、中学校で困るかもしれないなど不安です。

一方で、若葉小学校の方が近いのに、遠い小学校へ行っている人もいます。若葉小学校に来てくれたら児童数が増えるのになと思います。

だから、児童数が多い学校の1年生が、児童数が減ってきた少ない学校を選んでもらって、一番近い学校に行けるようにしたらどうでしょうか。私たちの学校に次に来る1年生が増えて、できることが増えていってくれるとうれしいです。

私は、1年生が児童の少ない学校選択できるようにして、児童を増やすことについて提案します。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 副市長。

○副市長（安藤 博さん） 上田莉緒さんからの「児童が少ない学校の1年生を増やすために」についてお答えいたします。

学校に通う児童数について、開校当時の状況と現在の人数を比較・分析し、それを解決するにはどうしたらいいのかを考え、自分たちが通う若葉小学校の未来について考えられたことは大変素晴らしいと思います。

皆さんが通う小学校につきましては、これまでの地域社会がつくられてきた経緯や新しい住宅地の開発など、それぞれの地域の実態を踏まえ、教育委員会が決定しています。通学の区域を決めることにより、その地域住民の方々や交通指導のボランティアの方々など地域社会と関わりが増え、防犯面でも安心できます。

上田さんのご提案のとおり、児童数の多い学校の1年生が児童数が減ってきた学校を選ぶようにすることは、よく考えられたご提案ですが、いろいろと課題も出てまいります。希望する学校が近くなる場合もありますが、逆に遠方になる可能性もあります。そうすると、通学に要する時間が長くなり、安全面での不安や体力の消耗など、安心して学校に通えなくなるという心配が出てまいります。また、学区は小学校や中学校への通学区域というだけでなく、様々な地域活動の生活基盤でもあり、それを変更するには地域の人々の合

意も必要となってきます。

しかしながら、児童数の減少は若葉小学校だけではなく、彦根市や全国の学校が抱える問題であります。皆さんがよりよい教育を受けられるように、彦根市としても、学校の規模や学区をどのようにすることがよいのか検討する必要があると考えているところであります。

今後、小・中学校の適正な規模を検討していく中で、上田さんのご提案のように、一番近い学校を選べるような制度についても一つの方法として研究してまいります。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 上田さん。

〔19番（上田莉緒さん）登壇〕

○19番（上田莉緒さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 20番堀部晃史さん。堀部さん。

〔20番（堀部晃史さん）登壇〕

○20番（堀部晃史さん） 「新しい競技場でみんなが参加できる運動会を」

僕は、新しくできた競技場でみんなが参加できる運動会をすることを提案します。

近年、外で遊ぶ人の人数が減ってきています。実際に子どもの1日の外遊びの時間は、1981年では2時間11分だったのに対し、2001年には1時間47分、2016年では1時間12分まで減少しています。

また、体力の低下も問題になっています。毎年行われている文部科学省による全国体力・運動能力、運動習慣等調査によると、小学校の体力の合計点数の変化は令和元年より低下していて、平成30年と令和3年だと、平成30年の点数は54点、令和3年は52点と低下しています。体力の低下は生活習慣病などの大きな病気につながってしまいます。

これらの問題を解決するには、新しくできた競技場でみんなが参加できる運動会が必要だと思います。そしたら、外に出て運動しようとしてくれます。ですが、ゲームをしていて外に出ない人もいるかもしれません。

そこで、運動会もゲームのような世界にすれば、家の中の人も少しは興味を持って参加してくれると考えます。例えば、各学校でアイデアを持ち寄り、自分たちが企画した運動会にすれば、より興味を持って参加してくれると思います。

以上のことから、僕はこの新しくできた競技場でみんなが参加できる運動会をすることを提案します。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） スポーツ部長。

○スポーツ部長（松宮智之さん） 堀部晃史さんからの「新しい競技場でみんなが参加できる運動会を」についてお答えします。

提案いただきました新しい競技場でみんなが参加できる運動会を開催することにつきましては、子どもの外遊び時間の減少や体力の低下といった問題に対してとても有効であると考えております。

彦根市にはプロシードアリーナHIKONEと平和堂HATOスタジアムという二つの新しい競技場がありますが、このうち、プロシードアリーナHIKONEでは、子どもからお年寄りまでみんなが参加できるまちなか交流フェスタを開催しています。

このまちなか交流フェスタでは、子どもが楽しめるキックターゲットやトランポリン教室、バスケットボール、ニュースポーツなどの体験講座のほか、再来年に滋賀県で開催される国民スポーツ大会の競技体験等のスポーツコーナーやパソコンゲームのプログラミング体験、かばんづくり教室といったスポーツ以外のコーナーも設け、多くの方に楽しんでいただくことができました。

また、平和堂HATOスタジアムでは、小学生からシニア世代まで幅広い年代の方に参加していただき、彦根城周辺を走る彦根シティマラソンを開催しております。

今後、このような取組を市民の皆様にも広くお知らせするとともに、新しい競技場を活用した運動会を含め、皆さんからいただいたアイデアを参考にしながら、より多くの方が参加できるイベントを研究していきたいと考えております。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 堀部さん。

〔20番（堀部晃史さん）登壇〕

○20番（堀部晃史さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 21番河村朱蓮さん。河村さん。

〔21番（河村朱蓮さん）登壇〕

○21番（河村朱蓮さん） 「市長の公約はいつどのような形で果たされるのか」

僕は、市長の公約はいつどのような形で果たされるのか疑問に思ったので質問します。

市長は、令和3年の選挙で8個の公約を掲げられました。その中で、医療費無償化拡大は、来年の4月から中学3年生まで実施されると決まったと聞きました。僕は来年中学生になるので、いいなと思いました。どのような形で果たされたのですか。教えてください。

しかし、小・中学校給食無償化はまだ果たされていません。給食は、家の食事を用意する負担が減りますし、栄養バランスが考えられているので、成長期の僕らにとってとても適していると言えます。無償化されたら、さらに家の人の負担が減り、助かると考えられます。今どのようなことに取り組みされていて、いつ果たされるのですか。教えてください。

公約は法的拘束力はないですが、市長の公約はどれも市民のためになると思います。だから絶対に果たしてほしいと思ったので質問します。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 市長。

○市長（和田裕行さん） ありがとうございます。河村朱蓮さんからの大変いい質問にお答えさせていただきます。

本当にこの公約というのは、例えば政治家の人たちを見るのに非常に重要なので、法的拘束力がないということではなくて、しっかりと監視していただきたい。その公約したことが本当に実現しているのかというのをぜひ市民の皆さんには見ていただきたいと思いま

す。

今ご質問いただいている給食も私は公約に掲げさせていただいているんですが、実はY o u T u b eで、伊藤咲和さんのときにありましたけど、医療費とこの給食無償化、中学校まで両方、小中の医療費、小中の給食、これの無償化をするために、Y o u T u b eでずっと言っていたんですけども、大変なお金が必要なので、何とかこれを捻出するための行財政改革というのは、要は彦根市の家計みたいなものです。これをしっかりとさせてもらうというお約束をさせてもらっています。単にやりますよではなくて、そのためのお金を捻出する。だから、公約というのは、何かをしますと言われたときに、では、財源というんですけど、そのお金はどうするのというところまで見ていただかなければいけないです。

例えばどこかの市長で、市長選に出るときにみんなに5万円配りますとか言った市長さんがいたんですけども、では、そのお金はどこにあるのというところまで見ていただかなければいけないということです。

そのお金の生み出し方、市の家計みたいなものをどうやってお金を稼ぐかというのは、まず大きく今日は三つに分けて言います。

一つは、やっぱり無駄をなくすことです。例えばやろうとしていること、彦根市でいうと、あるトンネルを掘ろうとしていたけど、それ、本当に要るの、なしでいけるではないのというのでやめたりとか、大きな図書館があるけれども、今は全然国からお金がもらえないのだったらちょっと先送りしようよとか、そういったことでいろいろ無駄を省いて、まず家計簿を守っていく。

そして、やっぱり稼がないといけない。そうすると、彦根市にもっと産業が来てどんどんお金が入ってくるような仕組みを一生懸命つくらなければいけないという、企業誘致とか学校もそうなんですけど、いろいろ彦根がにぎわいのある、また、観光客にいっぱい来てもらえるという取組をまずやって、家計を増やすということ。

三つ目が、国とか県にもう少しちょっと、地方というんですけど、我々にお金を回してくださいよというお願いをしていくという、これが非常に重要になります。

1個目の答えですけど、伊藤咲和さんのときにお答えしましたが、この医療費を高校3年生まで来年の4月から無償化しますけれども、それをどうしたかという、そういうやりくりをした中で何とか。これ、ずっと要るんです。1年だけではないんです。ずっと要るお金をこれだけ確保しましたよということを削って、それで議会の皆さんにお認めいただいて、恒久化でその制度をしていくというところです。

では、次、給食です。これ、もっともっとお金がかかります。引き続き、国とかにももっとちょっと増やしてよとか、さっき伊藤さんのときに答えたけど、市町で無料のところがあるんだったら、それは本当は日本という国が全部給食をやってくれなければ困るのではないのというのは、もう国の方にも訴えさせてもらっています。とはいえ、我々市町も一生懸命努力しなければいけないので、さっき言った三つで一生懸命お金を生み出そうと

しています。

現在何をやっているかという、実はものすごく食材が高騰しまして、あと、光熱費、電気もすごく上がっていて、ただ、皆さんに出していただいているのを値上げしないために、今そこは予算を認めていただいて、今、対策としてやっています。給食費、本当はもっともお金がかかっているんですけど、そこを今やっていただくのと、何とか頑張っていて、皆さんが中学校2年生になったときに給食費が無償化になるように、今、一生懸命頑張っている。その次、また小学校、これはもっとお金が要るので本当に大変なんですけど、皆さんの中学校2年生のときから給食代が無料になるように、今、全力で頑張っておりますので、引き続き皆さんでご理解いただければと思います。

以上です。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 河村さん。

〔21番（河村朱蓮さん）登壇〕

○21番（河村朱蓮さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 22番田村侑晏さん。田村さん。

〔22番（田村侑晏さん）登壇〕

○22番（田村侑晏さん） 「ゴミ箱を設置してきれいなまちに」

私は、彦根市の公園や施設にもっとごみ箱を増やすことを提案します。

私の通学路には横に田んぼがあります。その田んぼの横の溝には、大抵空き缶やお菓子の袋などのごみが落ちていたり捨ててあったりしています。そんなところを見ると、いつも嫌な気持ちになります。時々、溝には落ちていなくて、道路の方に捨ててあるところも見ます。周りを見るとごみ箱がなかったので、ごみ箱を増やして、きれいな彦根市を目指していきたいと思いました。

ごみ箱を増やすと、ごみはごみ箱へ捨てるということを当たり前に感じることができるようになることが考えられます。そして、ごみをごみ箱へ捨てることを意識しやすくなり、今までよりももっと多くの方がごみはきちんとごみ箱へ捨ててくれるようになることが期待できます。また、ごみ箱が設置してあるだけでも、ごみ箱へごみを捨てている人を見て、ごみはごみ箱に捨てるということを当たり前と感じ、意識しやすくなることができます。

以上のことから、彦根市の公園や施設にもっとごみ箱を増やすと、ごみはごみ箱に捨てるということを当たり前と感じ、意識しやすくなることが期待できます。なので、多くのごみ箱を設置すると、きれいな彦根市を目指していけると思います。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 市民環境部長。

○市民環境部長（北村典彦さん） 田村侑晏さんからの「ゴミ箱を設置してきれいなまちに」についてお答えをいたします。

田村さんがふだんの生活の中でお気づきのとおり、市内の道路の溝や公園などでポイ捨てごみが落ちているのを見かけることがあり、決して気持ちのよいものではありません。

田村さんがご提案されるように、ごみ箱をいろいろな場所に設置すれば、ごみはごみ箱に捨てるという意識が高まり、公園や道路のポイ捨てごみが減ることが期待できます。

その一方で、最近では公園や公共施設にごみ箱が設置されなくなってきています。その理由は、燃やすごみや瓶、缶などが分別されずに一緒に捨てられたり、本来であれば各家庭で処分しなければならないごみが持ち込まれたりすることで、捨てられたごみの分別やその処理に大変な手間や時間がかかってしまうことが原因です。つまり、ごみ捨てのルールやマナーを守らない人がいると、ごみ箱を管理する人は余計な苦勞をしなければならないことになってしまいます。

このことから、彦根市をきれいなまちにするためにまず大事なことは、マナーやルールを守らない人に意識を変えてもらうことであると考えており、ごみをポイ捨てしにくい社会をつくっていく必要があると考えています。

田村さんがおっしゃるとおり、ごみはごみ箱に捨てる、また、自分が出したごみは持ち帰って捨てる、ごみはしっかり分別して捨てるといった意識と行動が行き渡り、公園や道路などのポイ捨てごみがなくなるように、これからも皆さんに協力をお願いしていきますので、田村さんも学校や地域活動の場などでの協力をお願いいたします。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 田村さん。

〔22番（田村侑晏さん）登壇〕

○22番（田村侑晏さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 23番林璃皇さん。林さん。

〔23番（林 璃皇さん）登壇〕

○23番（林 璃皇さん） 「通学路のガードレール設置について」

僕は、通学路にガードレールを設置することを提案します。

城北学区にある県道329号線では、学校前の大通りを通学路として多くの児童が通っています。登校時には、朝に仕事へ通勤する人などが車で通行していますが、米原方面に向かっていく車がスピードをたくさん出している様子を見かけます。通学路に近づいている車を見かけると、縁石を乗り越えてきて交通事故が起きそうで怖いのです。

また、下校時には、朝よりもスピードを出している車が多いので、とても怖いのです。3年生のとき友達と帰っていると、スピードを出している車が近づいてきて怖い思いをしたことがあります。

2012年には、京都で無免許運転の車が児童2人と付添いの女性をはねて3人が亡くなっています。車が突っ込んでくると、大人がいても防げません。また、競技場も新しくなり、ますます車が増えると思います。

なので、県道329号線をはじめとして、ガードレールを設置することを提案します。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 建設部長。

○建設部長（關谷真治さん） 林璃皇さんからの通学路のガードレールの設置について

お答えします。

林さんご提案の道路は滋賀県が管理する道路で、米原市方面と彦根市を結ぶ幹線道路として1日の交通量は2万台を超え、朝夕を中心に交通量が多くなっています。

ご提案のガードレールの設置については、車が道路からはみ出すことを防止する目的に設置するものでありますが、この県道を管理する滋賀県に確認しましたところ、交通量が多いことやスピードが出ていることは認識されておりますが、ガードレールの設置については、直線部で車が走行する車線からはみ出すおそれが少ない区間には設置しておらず、カーブなどの特に車からはみ出すおそれがある場所に優先して設置しているとのことでありました。

そのほかでは、交差点付近などの歩行者が集まる場所についても、交通量や現地の状況に応じて設置されており、最近では、松原町東交差点に市道の拡幅に合わせてガードレールを取付けられたところでした。

林さんの車がスピードを出して怖い思いをされたとのことにつきましては、車を運転する人の交通安全意識の向上が重要となりますので、交通安全の啓発やスピード違反の取締りなど、警察と協力して交通安全運動に取り組んでいきたいと考えています。

最後に、皆さんの通学路につきましては、毎年、学校の先生や警察、道路を管理する国や県、市が合同で点検し、歩道がないところにグリーンベルトと呼ばれる緑色のラインを設置し通学路を分かるようにすることや、水路に蓋をかけて歩く場所を設けたり、道路に「横断者注意」などの文字を書くことなどの対策を行っており、これからも、林さんをはじめ皆さんが安全に安心して通学ができるように取り組んでまいりたいと思います。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 林さん。

〔23番（林 璃皇さん）登壇〕

○23番（林 璃皇さん） ありがとうございます。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 24番大城環希さん。大城さん。

〔24番（大城環希さん）登壇〕

○24番（大城環希さん） 「中学校の部活動について」

僕は、中学校の部活動の拠点校化を提案します。

僕は今、鳥居本小学校に通っていて、次に行く鳥居本中学校には部活動が三つしかありません。僕は今、サッカーを習っていて、中学校でも続けたいと思っています。しかし、鳥居本中学校にサッカー部がありません。

部活動の拠点校化というのは、例えば、彦根市内で鳥居本中学校にはハンドボール部、東中学校にはサッカー部というように学校ごとに部活動を決めて、そこに市内の中学生が自分のやりたいものを決めて、集まって活動するというものです。

これが実現すればいいことがたくさんあります。

一つ目は、自分の好きなことができるということです。二つ目は、市内から集まるので、

たくさん的人数で活動できるということです。三つ目は、それぞれの部活の専門の先生が集まって指導してもらえるとということです。四つ目は、先生の負担が減るとということです。

このことが実現して、中学生が3年間ずっと頑張れるような彦根市になればいいと考えます。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 教育長。

○教育長（西嶋良年さん） 大城環希さんからの中学校の部活動についてお答えします。

スポーツは、続けることを通して、運動することの楽しさや仲間とのつながりを感じ取ることのできる素晴らしいものだと思います。

現在、彦根市立の中学校においては、運動部の設置数は1から12まで、文化部の設置数は2から6までと学校によって様々です。これは、学校によって各部活動に加入する生徒の数や指導する先生の数に差があるためです。

大城さんのように、進学を予定している中学校に自分が取り組みたい部活がないと不安に思っている友達もいると思います。そうした問題を解決するために、これからの部活動の在り方について全国的に検討をされています。

解決方法の一つとして、ご提案いただいている部活動の拠点校化があります。この方法を取り入れることができれば、大城さんが述べておられる四つのいいことの実現に近づくことが期待できます。

彦根市においても、中学校の部活動について、保護者や専門家の方、また、小・中学校の先生にも加わっていただき、このことについての話し合いを進めています。まずは、中学校の休日の部活動について、大城さんの提案されている拠点校化の方法も取り入れて進めていきたいと考えています。貴重なご提案をありがとうございました。

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 大城さん。

〔24番（大城環希さん）登壇〕

○24番（大城環希さん） ありがとうございました。

これで私の質問を終わります。（拍手）

○第3グループ議長（堀田悠介さん） 以上で全ての質問を終了します。

これで第14回彦根市子ども議会を閉会します。

皆さん、お疲れさまでした。

午前11時45分閉会

会議録署名議員

第1グループ議長	福原	徳
第2グループ議長	大城環希	
第3グループ議長	堀田悠介	
議員	宮崎稜人	
議員	林	紗江